

# Jスタイルズ 平渡淳一社長 48歳①

ワーキングホリデー経験者や留学経験者の就職支援と、飲食・サービス企業の海外展開コンサルを手掛けるJスタイルズ(東京都千

代田区)は、2015年に創業。社長の平渡淳一は1971年生まれ、いわゆる「失われた世代」だ。一度は自己破産した彼の

波乱の人生に迫る。  
「留学資金は出せない。ウチは裕福じゃないから」  
日頃は温厚なサラリーマンの父親が、キッパリと言いつ放った。1990年春、明治大学法学部に合格したばかりの平渡は、「留学したい」と父に打ち明けたが、

完全に拒絶されてしまう。埼玉県草加市の自宅でのワンシーンだった。両親は共に栃木県足利市の出身。苦勞しながら平渡と妹を育てていた。教育には熱心で、小学校上がったばかりの長男を近所の英語塾に通わせる。

「月謝が安い割に楽しかった。私が英語を好きになるきっかけでした」  
やがて洋楽好きに転じていく。ブライアン・アダムスを愛し、マドンナ、マイケル・ジャクソン、カルチヤー・クラブ、プリンスを聴きまくる。高校(市川学園)時代、「カームは気まぐれ」を暗唱。合コンのカラオケでは、字幕を見ずにボーイ・ジョージそっくりの振り付けで歌うと、山脇など、お嬢さま系女子高生から喝采を浴びた。

留学を希望したのは、英語力向上に伴い、「世界ともっとつながりたい」と意識したためだった。  
「留学資金は自分で稼げない」。こう決断すると、学業の傍らアルバイトに励む。家庭教師、英語の塾講師、宴会施設の配膳……。

「世の中は不公平だ。金がないければ、やりたいことなんかできない。世界の強烈なやつらと伍するため、僕はもっとここで学ばなければいけないのに」  
忸怩たる思いを胸に、予定を4カ月前倒しして帰国する。

## 語り部の経営者たち

経済ジャーナリスト 永井隆



# 貯めたカネが底をつき忸怩たる思いで留学を切り上げる

3年間で200万円を稼ぎ、93年4月にトロントの語学学校に入る。カナダを選んだのは「銃が規制されアメリカと比べ安全だったのと、ヨーロッパ人が多く英語も奇麗だから」という。現地ですみず驚いたのは、「日本人留学生は、金持ちの子女ばかり。しかも、外国に来たのに、日本人同士でつるんでいる。貧しいのは僕だけ。自費で英語の勉強

強にきている自分は、つるむわけにはいかず、必死で「次には驚いたのは、日本人以外の留学生たちの意識の高さ。『俺ははずれ国をよって立つ。ジュン、君は将来どんな大きなことをやるんだ』。20人ほどのクラスには世界中から若者が集まっていて、つわもの揃い。日本への質問も受ける。『日本への質問も受ける。』

8月6日、22歳の誕生日をニューヨークで迎える。飛行機を使わず、安価なバスでカナダから移動した。英語教師の家にホームステイし、生活を徹底して切り詰めていた。しかし、資金が底をつき、11月に帰国せ

るのか」「日本人はなぜ、意見を言わない」「日本人はなぜ、外国人と交流しないのか。世界に貢献する意識がないからでは……」  
「世の中は不公平だ。金がないければ、やりたいことなんかできない。世界の強烈なやつらと伍するため、僕はもっとここで学ばなければいけないのに」  
忸怩たる思いを胸に、予定を4カ月前倒しして帰国する。

「世の中は不公平だ。金がないければ、やりたいことなんかできない。世界の強烈なやつらと伍するため、僕はもっとここで学ばなければいけないのに」  
忸怩たる思いを胸に、予定を4カ月前倒しして帰国する。

### トランプに握られた日本人の胃袋

奥野修司 本紙取材班

# 危険ス

過酢酸  
ご存じだ  
関係して  
ば、ます  
ないが、  
臭いがす  
化水素、  
もので、  
して使わ  
酢酸に変  
酸素を放  
れに触れ  
う。米國  
どの殺菌

懸賞ク

クオカード 1万円

お楽しみ

出題: 浜

第2148

△「」のカギ

1...花札の2月に描

3...観光客が押し寄

の大型連休

7...洋食はこで

8...スケール

9...そろそろお目覚

連載 24